

第 33 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

第 6 回社会教育委員会議	
開催日時	令和元年 5 月 29 日 (水) 午後 2 時～午後 5 時
会 場	クロスパルにいがた 4 階 402 講座室
出席者	<p>【社会教育委員】 伊比 宗宏、岡 昌子、小川 崇、角野 仁美、雲尾 周、笹川 博人、杉山 節子、田中 一昭、田中 宏和、山田 久美子、渡邊 彩 計 11 名 *敬称略</p> <p>【事務局】 教育次長、地域教育推進課長、中央公民館長、中央図書館長、中央図書館館長補佐、生涯学習センター所長、生涯学習センター所長補佐 生涯学習センター職員 3 名 計 10 名</p>
内 容	<p>(委嘱状交付)</p> <p>1 開会</p> <p>2 教育次長あいさつ</p> <p>3 委員自己紹介</p> <p>4 職員自己紹介</p> <p>5 報告事項</p> <p>(1) 第 33 期新潟市社会教育委員名簿について</p> <p>(2) 第 31 期・32 期新潟市社会教育委員会議建議の実施状況について ○報告資料 2 に基づき、事務局から平成 30 年度の事業実施状況及び今後の取り組みについて説明を行いました。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本施策の学習支援の 25 番、民間企業などとの効果的な連携に関する調査研究とは、具体的にどこと連携してどのような調査をしたのか。 ⇒地域教育推進課では「子どもふれあいスクール事業」の中で土曜日の活動活性化のため、土曜活動プログラムを設定している。キューピーや、アルビレックスなど地元企業が子どもたちの活動を支援するという取り組みを少しずつ始めている。例えばキューピーから親子料理教室に材料を提供いただくなどで、メーカー側は調味料を理解してもらうことを目的としている。 <p>(3) 令和元年度社会教育関係当初予算について ○報告資料 3 に基づき、各担当課から所管する予算について説明を行いました。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域教育推進課のパートナーシップ事業は、高校 1 校というのは万代高校で、もう 1 校の導入予定はあるか。 ⇒高校については、昨年度、パートナーシップ事業の開催希望について各学校と情報交換をし、万代高校で今年度スタートしている。 中等教育学校後期を含めた 2 校については、今後、高校とも相談をしながら検討していく。 ・地域課題解決型学習が求められているため、必要な事業と思われる。 ⇒新しい学習指導要領が出てきて、高校も地域あるいは地元の大学、あるいは

<p>内 容</p>	<p>は企業との連携、協働が大切になってきており、高校からの需要も増えてくると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館の家庭教育振興事業で「乳児期、幼児期、児童期、思春期」の家庭教育学級を実施しているとあるが、実際、どの層の家庭教育学級をしているか。就園前や、保育園、幼稚園の子を対象にしているイメージがある。 ⇒今年予定している 64 講座のうち、乳児期が 26、幼児期が 21 であり、数としては就学前の保護者に向けたものが多い。児童期、そして思春期の数は一桁ではあるが、それぞれ学校や公民館を会場にして、その年代に合わせた講座を実施している。父親向けや、孫育ても各 1 講座ある。 ・「子育て学習出前講座」を小中学校の入学前健診のときに実施しているが、参加者は多く集まるか。 ⇒昨年の実績は、小学校が 106 校中 103 校、中学校が 57 校中 16 校で実施し、合計で 7,314 人の保護者の方から参加いただいた。保護者が多く集まる機会を利用している。 <p>(4) 令和元年度社会教育委員会議日程及び各種研究大会・研修日程について ○報告資料 4 に基づき、事務局が会議及び各種研究大会等の日程について説明を行いました。 ⇒第 19 回新潟県社会教育研究大会について、角野委員が参加することで了承されました。</p> <p>(5) 令和元年度 第 46 回市政世論調査について ○報告資料 5 に基づき、事務局が第 46 回市政世論調査について説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ⇒質問や意見はありませんでした。</p> <p>(6) 各種アンケート結果について ○報告資料 6-1、6-2 に基づき、事務局がアンケート結果について説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ・ユース年代の意識調査の質問で「あなたは実際に学ぶ機会を利用していますか」などは聞いていないか。 ⇒普段学ぶ機会を持っているかは聞いていない。</p> <p>6 協議事項</p> <p>(1) 第 33 期社会教育委員会議 建議策定スケジュールについて ○協議資料 1 に基づき、事務局が建議策定に関わるスケジュールについて説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ・第 4 期新潟市教育ビジョンを策定している中で、生涯学習、社会教育、あるいはCSに関わる部分、社会教育委員に関わる部分について、原案の提示等はされているか。 ⇒7月8日から第4期実施計画のパブリックコメントを実施予定で、生涯学習の部分も入っているため、7月の第7回会議で資料として委員に提示してご意見を伺う。</p> <p>(2) 第 33 期社会教育委員会議建議の構成について</p>
------------	---

内 容	<p>○協議資料 2 に基づき、事務局が建議構成（案）について説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ⇒質問や意見はありませんでした。</p> <p>7 事例研究 秋葉区「Akiha きらきらプロジェクト」の活動について ○資料に基づき、事務局が「Akiha きらきらプロジェクト」について事業説明を行い、渡邊委員が補足説明をしました。 【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この活動をしていくにあたっての財源の確保について教えてほしい。 ⇒各チームのリーダーで昨年度末に話をした時、一般社団法人等の団体として立ち上げ、助成金等の申請をしていく方がいいのではないかという話になってきている。リーダーだけで決めるのでは同意が得られないため、参加者の方々にもこういう方向で行こうという話を今年度進めていこうと動いている。 ・最初の募集で 20 人に対して 25 人集まったというのはすごいと思うが、これはどのような募集をかけたのか。 ⇒区だよりもあるが、最初は口コミで直接知っている人に声をかけ、面白いものが始まるということを前提に話していき、そこから拡散させていった。 ・新津のまちは駅前の繁華街と、住宅街が新津第二の所ですごく大きくなっていると思うが、例えば様々な事業やイベントを実施する際に、こういった地点を狙いとしてされているか。 ⇒様々な地域でそれぞれが感じている課題が違うため、そこから抽出して 4 チームに分かれている。異文化交流とは、新興住宅地では隣にどのような人が住んでいるか分からないという不安を抱えていて、それに対して地域で何かイベントができればいいということで、この交流というキーワードが出てきた。 ・負担感がないスケジュールとは、具体的にどのくらいの頻度でこういった場所集まりがあったかお聞きしたい。 ⇒頻度は、このプロジェクトの 4 回だけではなく、それぞれのチームに分かれて SNS で打ち合わせをして、例えばチームリーダーの雑貨屋に集まったり、区役所の何階を借りたりなど、月に 1 回くらいは定期的に会うような形で進めている。 ・4 つのチームは、自然発生的にできたのか。また、チーム編成についての 2 点を教えてほしい。 ⇒まず、何が課題か、これから何をしていきたいか、どういうまちにしたいかということを出し合い、分類をしてこの 4 つになった。その後、どのテーブルにつきたいかということで話を進め、段々とメンバーがチームの所属という感じになっていった。ただ、年度ごとにメンバーは代わり、そこで前年度参加者が継続して参加していた場合は、このような話し合いが前年度にあったと次の世代の人に伝え、参加したい方はどうぞうちのチームへという呼び掛けを行い、自主的に参加していった。 <p>8 意見交換 ○「いろいろな世代の学びの充実と展開による次世代育成」グループ発表 ・Akiha きらきらプロジェクトの自主運営の財源確保が必要というところから、まちづくり、まち興しというのは普遍的な課題だが、どこまで自主的にやって</p>
-----	--

	<p>いけるのだろうかという話になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次の世代が活動を担うとなると、やはり自分事として本気になって取り組めるということ、いかに自分が楽しめるかということが大切ではないか。 ・ 白根高校の事例など、家族で、世代間で学びがあることが大事だが、世代ごとに学びというのは違い、課題は違うのではないかと、引き継いでいくことがそのままいいことなのかという問いになった。世代によって楽しみ方は全然違い、伝統の文化を引き継ぐという部分と学びの継続という部分は、別の柱立てが必要なのではないかという話になった。 ・ 最後に、すごく重要なところで、伝えたい側と伝えられる側で、その実感とか学びの要求のずれというものがあるだろうと。それをいかにつなげていくか、そのギャップをどう埋めていったらいいかというところで話が終了した。 <p>○ 「世代を超えた学びの継承と創造による次世代育成」グループ発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 白根高校の取り組みは素晴らしかったと皆共通で感動していたが、一つ問題とすれば、お年寄りの世代と孫のような世代とで話し合い、コミュニケーションができるということは昨年の取り組みで見えたが、高校生、中学生、小学生の親世代である、今PTAで活躍している世代はどうなのか。その世代も含めた取り組みを今後何かできるか、今年もう少し探っていきたいという意見が出た。 ・ 中之口の取り組みは、小学校を卒業して、大阪や名古屋、東京の大学を卒業したが、もう一回故郷を元気にしたいというものだった。特に面白いと思ったのは、強制的でなく、小学校への出前授業や、他にも公民館や色々な場所を使って、子育て世代とか年配のお婆ちゃん、お爺ちゃん達にも故郷の伝統料理で何か作ってもらうなど、色々な事に取り組んでいる活動であった。あの活動がその後どのように発展しているのか、また課題は何なのか、その辺をもう少し今年見てみたいというところを話し合った。 <p>9 その他</p> <p>10 閉会</p>
傍聴者	0名
会議資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 33 期新潟市社会教育委員会議（第 6 回）次第 ・ 報告資料 1 第 33 期 新潟市社会教育委員名簿 ・ 報告資料 2 第 31 期・第 32 期新潟市社会教育委員会議建議の実施状況について ・ 報告資料 3 - 1 令和元年度当初予算 総括表 ・ 報告資料 3 - 2 令和元年度当初予算事業説明書 ・ 報告資料 4 第 33 期 新潟市社会教育委員会議日程（案）及び各種研究大会・研修日程について ・ 報告資料 5 令和元年度 第 46 回市政世論調査について ・ 報告資料 6-1 生涯学習・社会教育に関するアンケート結果 ・ 報告資料 6-2 ユース年代の意識調査「7つの質問にお答えください」の結果概要 ・ 協議資料 1 第 33 期社会教育委員会議 建議策定スケジュール（案） ・ 協議資料 2 第 33 期社会教育委員会議建議の構成について（案） ・ その他資料 1 令和元年度（第 25 期）にいがた市民大学 入学式兼公開講演会 実施概要 ・ その他資料 2 令和元年度社会教育委員等研修会開催要項（案） ・ その他資料 3 関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会 開催要項